

2018(平成30)年度 児童発達支援又は放課後等デイサービス事業に係る自己評価結果公表用

公表日:2018(平成30)年11月14日

配布数:29 回収数:14 回収率:48.3%

事業所名:しえあきつず

区分	チェック項目	現状評価(実施状況・工夫点等)	保護者の評価(件数)					保護者の評価を踏まえた改善目標・内容
			はい	どちらでもない	いいえ	わからない	ご意見	
環境・体制整備	1 利用定員に応じた指導訓練室等スペースの十分な確保	<ul style="list-style-type: none"> ・利用定員5人に対し、担当スタッフがつかと、スペースは十分とはいえない。 ・バギーやおもちゃなど使わない物は外に出す、片づける等してスペースの確保に努めている。 ・十分とは言えず狭い。小中学生が利用の時は特に狭く感じる。バギーも大きくスペースをとっている。 ・子どもたちの成長、医療的機器が多いことで、スペースが手狭になっている。 ・放デのご利用が増えており、子どもたちの成長と共に手狭になってきている。 	4	5	0	1	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもたちも大きくなってきているのでスペース増が欲しいと思う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・利用人数が定員以下の場合いいが、定員に達したときは荷物の置き方等工夫しできるだけスペースを確保する。 ・バギーは室外に置く。必要なもの以外は出しっ放しにしないように心がけている。 ・新しいスペースの新設の検討。安全に過ごせるように声かけ、見守りを徹底する。
	2 職員の適切な配置	<ul style="list-style-type: none"> ・スタッフは利用者さんに対し1人以上がフォローしており、適切に配置されている。 ・新人職員には、伝える職員が絶えずついている。1人になっていてもフォローする人がいる。 ・スタッフ増員により以前より充実している。 	9	0	0	1		<ul style="list-style-type: none"> ・現状を維持する。
	3 本人にわかりやすい構造、バリアフリー化、情報伝達等に配慮した環境など障害の特性に応じた設備整備	<ul style="list-style-type: none"> ・普通の家の構造でありバリアフリー化されていない。そのため、利用者様やスタッフが歩行しやすいように導線に物を置かないようにしている。 ・借家でありバリアフリーとなっていない。狭いため情報の伝達は十分に出来ている。 ・現状の中で工夫できている。 	6	3	1	1		<ul style="list-style-type: none"> ・物の位置や物品の位置など、出来る範囲内で環境整備を行う。 ・保護者の方に安心して預けてもらえるように、危険を予測し、利用者様の手を引いて歩くなどして、事故に繋がらないようにする。 ・バギーや抱き抱えての移動時は転倒等に注意する。 ・カードや実物(おもつ、おやつなど)を用いて、本人に分りやすいよう伝える工夫をする。
	4 清潔で、心地よく過ごせ、子ども達の活動に合わせた生活空間の確保	<ul style="list-style-type: none"> ・家庭的な雰囲気であり、毎日清掃、空気清浄機の使用など配慮している。 ・毎日室内の掃除やタオル、寝具類のカバーの選択をし清潔に心がけている。 	8	0	0	0		<ul style="list-style-type: none"> ・掃除や整頓を徹底して行き現状を維持する。 ・継続して掃除など行き、清潔な空間を保つ。 ・整理整頓
業務改善	1 業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)への職員の積極的な参画	<ul style="list-style-type: none"> ・非常勤職員の参加が少ない。 ・月に1回の会議などで実施されている。 ・個別支援計画立案に向け会議を実施している。 ・定期的に加え、必要時、話し合いの場を設けている。 						<ul style="list-style-type: none"> ・非常勤職員も積極的に参加し情報共有を図る。
	2 第三者による外部評価を活用した業務改善の実施	<ul style="list-style-type: none"> ・行っていない。 						<ul style="list-style-type: none"> ・外部評価の導入を検討する。 ・他事業所見学等を積極的に行う。 ・見学に来た人たちにアンケートを取る。
	3 職員の資質の向上を行うための研修機会の確保	<ul style="list-style-type: none"> ・外部研修の案内が積極的に行われている。 ・体験を伴うリハビリの勉強会が行われた。 ・スタッフが自分で行きたい研修を探し参加している。法人も研修費用を負担しスタッフが参加しやすく配慮している。 ・勉強会を行う際には、時間等の配慮をしている。 						<ul style="list-style-type: none"> ・職員が自発的に研修に参加する。 ・利用者様の症状などの勉強会に参加する。 ・必要に応じて会議等で防災、リハビリ等の意見交換や情報提供、手技の伝達を行う。 ・積極的に研修参加をあっせんする。

区分	チェック項目	現状評価(実施状況・工夫点等)	保護者の評価(件数)					保護者の評価を踏まえた改善目標・内容
			はい	どちらでもない	いいえ	わからない	ご意見	
適切な支援の提供	1	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上での児童発達支援計画又は放課後等デイサービス計画の作成	・利用者一人一人個性のある計画が作成されており、情報共有できるよう工夫がされている。 ・保護者と話し、スタッフ間でも会議を行い、立案している。	9	0	0	0	・状況に応じ、適宜保護者様とコミュニケーションを取り、追加・修正を行う。
	2	子どもの状況に応じ、かつ個別活動と集団活動を適宜組み合わせた児童発達支援又は放課後等デイサービス計画の作成	・聞き取りをした後に、職員全体で計画立案について話し合うことが出来ており、計画に盛り込まれている。 ・子どもの個々のニーズや発達をみながら個別、または集団での関わり持てるよう支援内容を考え実行している。 ・保育の時間で集団活動をしたり友達と一緒に何かをしたり、個別で製作に取り組んでいる。	/	/	/	/	・状況に応じ、適宜保護者様とコミュニケーションを取り、追加・修正を行う。
	3	児童発達支援計画又は放課後等デイサービス計画における子どもの支援に必要な項目の設定及び具体的な支援内容の記載	・利用者一人一人個性のある計画が作成されており、情報共有できるよう工夫がされている。 ・聞き取りをした後に、みんなで計画立案について話し合うことが出来ており、計画に盛り込まれている。 ・保育、看護、リハ等色々な職種で計画を立案している。	9	0	0	0	・状況に応じ、適宜保護者様とコミュニケーションを取り、追加・修正を行う。
	4	児童発達支援計画又は放課後等デイサービス計画に沿った適切な支援の実施	・適切な計画が作成されているため計画に沿った支援がされている。 ・担当につくときは個別支援計画に目を通して、計画に沿ったものと考えて実施している。 ・支援計画書の確認や担当スタッフからの申し送りを受け計画に添いながらも、日々の支援として臨機応変に対応している。	9	0	0	0	・適宜追加・修正を行い、それに応じた支援を行う。 ・リハビリの計画に対しても遊びの中に取り入れるようにする。 ・計画を日頃から見直すことを心掛ける。 ・スタッフ間の伝達を密に行う。あまりしえあきっずに関わっていないスタッフへの、適切な支援を行うための情報・意識共有の場を作る。
	5	チーム全体での活動プログラムの立案	・しえあきっず会議などを実施し、月の保育内容を話し合っている。 ・保育に関しては、会議の時に次月の案を出し決めている。 ・母の日参観などの行事を行っている。 ・意見を出し合って立案している。	/	/	/	/	・それぞれの職種の特性を活かした活動プログラムを立案する。 ・季節ごとの活動や毎年の保育に関しては会議で案を出し決めていく。 ・内容をさらに、個別プログラムを行っていく必要がある。
	6	平日、休日、長期休暇に応じたきめ細やかな支援	・保護者様の要望を取り入れ、可能な範囲での支援ができています。 ・特に長期休暇はイベントや遊びを増やして支援ができています。 ・どうしても希望日、曜日の片寄りがみられるが、できるだけ希望に添える様努力している。また緊急時の利用にも対応している。 ・個々の家庭の事情を考慮に入れながら、他の施設とも連携を取り、なるべく希望に添える対応を心掛けている。 ・長期休暇は小学生も増えているため、集団遊びを多く取り、子ども同士の関わりを意識している。	/	/	/	/	・無理のないよう長期的に支援が行えるようにする。
	7	活動プログラムが固定化しないような工夫の実施	・天候や季節に応じて活動プログラムが考えられている。 ・歌、体操、絵本、体を動かす遊び等、月ごと、利用者様ごとに考えて活動している。 ・毎回改善点、反省点、良かった点など話し合い、より良い活動ができるよう工夫し、また、新しい事にもチャレンジしている。 ・月々変わる保育活動を実施している。 ・年間計画を立て、季節に合わせて活動を実施している。 ・行事、季節を意識して行っている。	9	0	0	1	・全体で意見を出し合い、活動プログラムを決定していく。 ・楽しい遊びができるように新しい発想をもって提案できるようにする。 ・保護者様には分りにくいと思われるため、年2～3回のお手紙を作成し、保育や活動内容を知らせていく。 ・保育は、就学前、就学、中学生以上と内容が違うものを考える。

区分	チェック項目	現状評価(実施状況・工夫点等)	保護者の評価(件数)					保護者の評価を踏まえた改善目標・内容
			はい	どちらでもない	いいえ	わからない	ご意見	
適切な支援の提供	8	支援開始前における職員間でその日の支援内容や役割分担についての確認の徹底	/					<ul style="list-style-type: none"> 確認の徹底ができていないため、現状を維持する。 日の途中から担当スタッフとして入ることが多いため、スケジュールの抜けがないように、他のスタッフに確認することを怠らないようにする。
	9	支援終了後における職員間でその日行われた支援の振り返りと気付いた点などの情報の共有化						<ul style="list-style-type: none"> 気づいた点などあれば、その都度情報の共有を行う。 個別に情報収集を行う。また訪問看護との連携を行い、事前に気になる利用者様について情報収集と共有化を行っていく。 新しいスタッフも多いため、皆が意識できるように伝えていく。 送迎後まで残っているメンバーで5分程度話合う。 定期的なカンファレンスを実施する。
	10	日々の支援に関しての正確な記録の徹底や、支援の検証・改善の継続実施						<ul style="list-style-type: none"> 直接的な支援と同様に記録も重要視し、検証、改善に役立てる。 バタバタして書きそびれた時に口頭で細かく伝えられるようにしていく。 新しいスタッフも多いため、皆が意識できるように伝えていく 全職員が必ず目を通す。必要時、しえあきつず会議での共有する。
	11	定期的なモニタリングの実施及び児童発達支援計画又は放課後等デイサービス計画の見直し						<ul style="list-style-type: none"> 定期的な見直しを継続して行う。 6ヶ月ごとに行う。
関係機関との連携	1	子どもの状況に精通した最もふさわしい者による障害児相談支援事業所のサービス担当者会議へり参画	/					<ul style="list-style-type: none"> できる限り参加する。
	2	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合) 地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援の実施						<ul style="list-style-type: none"> 今後も長期休暇に見学に来てもらい、互いの情報共有をしていく。
	3	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合) 子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制の整備						<ul style="list-style-type: none"> 整備できているので継続する。

区分	チェック項目	現状評価(実施状況・工夫点等)	保護者の評価(件数)				保護者の評価を踏まえた改善目標・内容
			はい	どちらでもない	いいえ	わからない	
関係機関との連携	4	児童発達支援事業所からの円滑な移行支援のため、保育所や認定こども園、幼稚園、小学校、特別支援学校(小学部)等との間での支援内容等の十分な情報共有	/				<ul style="list-style-type: none"> ・送迎時など支援学校の先生とは情報交換しており継続する。 ・学校、放課後デイのスタッフと話し合いを持てる機会を探る。 ・連携を密に行う。
	5	放課後等デイサービスからの円滑な移行支援のため、学校を卒業後、障害福祉サービス事業所等に対するそれまでの支援内容等についての十分な情報提供	/				<ul style="list-style-type: none"> ・まだそのような事例はない。
	6	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携や、専門機関での研修の受講の促進	/				<ul style="list-style-type: none"> ・できているので継続する。
	7	児童発達支援の場合の保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、放課後等デイサービスの場合の放課後児童クラブや児童館との交流など、障害のない子どもと活動する機会の提供	0	2	2	7	<ul style="list-style-type: none"> ・長期休暇を利用して、地域のイベントへの参加など、地域の子供たちと関われる機会を作っていく。 ・児童館のイベント、図書館の利用を行っていく。 ・日頃から交流する機会は難しいが、活動の中で図書館や公園、スーパー等地域に出かける機会を作っていく。
	8	事業所の行事への地域住民の招待など地域に開かれた事業の運営	/				<ul style="list-style-type: none"> ・地域のお祭りなどの参加を検討する。
保護者への説明責任・連携支援	1	支援の内容、利用者負担等についての丁寧な説明	9	0	0	0	<ul style="list-style-type: none"> ・引き続き保護者様の疑問の解決を行う。
	2	児童発達支援計画又は放課後等デイサービス計画を示しながらの支援内容の丁寧な説明	9	0	0	0	<ul style="list-style-type: none"> ・たまに活動の様子を写真などで見れたら、分りやすいかな、と思いました。 ・インスタグラムやフェイスブックのご案内をする。SNSをされていない方にはお写真をお渡しする。 ・引き続き6ヶ月ごとに行う。
	3	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対するペアレント・トレーニング等の支援の実施	2	1	1	6	<ul style="list-style-type: none"> ・参加日など集まる機会を利用して親向けの時間をとることができるのではないかと検討していく。

区分	チェック項目	現状評価(実施状況・工夫点等)	保護者の評価(件数)				保護者の評価を踏まえた改善目標・内容	
			はい	どちらでもない	いいえ	わからない		ご意見
保護者への説明責・連携支援	4	子どもの発達の状況や課題について、日頃から保護者との共通理解の徹底	9	0	0	0	<ul style="list-style-type: none"> 子どもの一番の理解者である保護者様と積極的にコミュニケーションをとることを継続して行う。 できるだけ送迎時に行えるようにしている。会えない方には計画立案時の聞き取りで話をしている。 	
	5	保護者からの子育ての悩み等に対する相談への適切な対応と必要な助言の実施	7	2	0	2	<ul style="list-style-type: none"> 十分な対応が出来ているとはいえないため、保護者様が話ができる環境と時間を作る。 自ら言い出しにくい方もいると思うので、こちらから聞く等も行う。 相談があれば対応する。 適切な対応、助言ができるよう、保護者から聞いたことは他のスタッフにも伝え、みんなで話し合うようにしていく。 	
	6	父母の会の活動の支援や、保護者会の開催による保護者同士の連携支援	3	2	2	6	<ul style="list-style-type: none"> 父母の会は作っていないが、参観を年1~2回行う。 ちびっこのつどいやハロウィンパーティーなど、親子参加の場で紹介や共有できる機会を設ける。 今後も母の日、父の日等、保護者様が交流できるイベントを企画していく。 保護者の要望に応えきれていない部分がある。アンケートなど参考に改善していく。 	
	7	子どもや保護者からの苦情に対する対応体制整備や、子どもや保護者に周知及び苦情があった場合の迅速かつ適切な対応	8	2	0	1	<ul style="list-style-type: none"> できる限り苦情のないよう努め、その上で苦情があった場合、迅速かつ適切な対応を行う。 できる限り迅速に、適切に対応できるように心がける。 今後も丁寧な対応を心掛け、また、日頃から言いやす関係づくりを心掛ける。 	
	8	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮	8	0	0	0	<ul style="list-style-type: none"> 支援者側の一人よがりにならないように配慮する。 障害に個性あり。話を受け止めフィードバックしていく。 	
	9	定期的な会報等の発行、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報についての子どもや保護者への発信	9	0	0	1	<ul style="list-style-type: none"> 配布物は期限内に確実に保護者の手に渡るようにする。 年2~3回会報(保育や活動内容記入)発行していく。インスタグラムを活用する。 	
	10	個人情報の取扱いに対する十分な対応	9	0	0	1	<ul style="list-style-type: none"> スタッフ一人ひとりが重要な個人情報を利用している自覚を持ち、適切に使用する。 	
			<ul style="list-style-type: none"> 保護者様と積極的にコミュニケーションを取り、共通理解に努めている。 送迎の際に保護者様と話し、お子さんの情報を共有している。 送迎時や計画立案のため聞き取りをする時にさらに話をしている。 利用後に必ず保護者様に日々の気づきや発達状況の報告をしている。 					
			<ul style="list-style-type: none"> 保護者様が抱える悩みや不安にできる限り寄り添えるよう努力している。 専門的知識が要る内容については、持ち帰って各職種に聞いて保護者様に返すようにしている。 担当スタッフは丁寧に相談内容を把握し、スタッフ全員で適切な対応ができるよう話し合い、保護者様に助言している。 保護者様からの相談は随時受けている 					
			<ul style="list-style-type: none"> 頻度は多くないが、準備や企画の負担を考慮すると、十分な開催が出来ている。 参観日を行った。父母の会は作っていない。 ちびっこのつどいなどを設けている。年2回集いを通して保護者様同士の連携を支援している。 イベントを通じて共通の悩みを相談出来たり、つながりを実感してもらう活動をしている。 					
		<ul style="list-style-type: none"> 連絡があった場合、管理者や責任者が対応している。 担当で話し合い、出来るだけ具体的な対策を立て、対応に努めている。 苦情があった場合はすぐに責任者に報告している。関係スタッフで話し合った後、保護者様へ状態を伝え対応している。 						
		<ul style="list-style-type: none"> それぞれの特性や性格を考慮し、意思疎通を図るように心がけている。 子どもに合わせてコミュニケーション方法を変えている。 声かけをしっかりと行い、反応を確保して適切な声かけが出来るようにしている。 疎通がうまくできなかったとしても、声掛けをして理解してもらうことに努める。また、反応をしっかりとみて思いを汲み取るようこころがけている 						
		<ul style="list-style-type: none"> 会報や手紙等を使用し情報の発信ができています。 インスタグラムの活用と保護者へのお知らせを配布している。 年間行事予定を配布している。 						
		<ul style="list-style-type: none"> 個人情報外部にもれることがないように対応できている。 受給者証などはお預かりしてすぐに処理し、遅くとも翌日にはお返しするようにしている。 写真やインスタグラムに載せるときに情報の取扱いに注意している。 						

区分	チェック項目	現状評価(実施状況・工夫点等)	保護者の評価(件数)				保護者の評価を踏まえた改善目標・内容
			はい	どちらでもない	いいえ	わからない	
非常時等の対応	1 緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルの策定と、職員や保護者への周知徹底	<ul style="list-style-type: none"> ・マニュアルを作成し職員に周知できている。 ・マニュアルは作成しているが、なかなか保護者へ伝達できていないと感じる。 ・昨年、火災を想定した訓練を実施した。 ・緊急時等は人員に不安がある。 	5	1	1	4	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者様への周知が不十分であるため、必要時マニュアルを開示する。 ・職員自身がまずしっかり把握しておく。 ・職員、保護者様に周知できる様に防災訓練を行い、会報で発信していく。 ・H30.10月より、月1回の防災会議、訓練を実施している。
	2 非常災害の発生に備えた、定期的避難、救出その他必要な訓練の実施	<ul style="list-style-type: none"> ・年間計画を立て実施していく予定。 ・昨年、火災を想定した訓練を実施した。 ・訓練に向けての話し合いの機会を持っている。 	2	1	2	6	<ul style="list-style-type: none"> ・定期的に訓練を行い、保護者様にも参加を促す。 ・H30.10月より、月1回の防災会議、訓練を実施している。 ・さまざまな災害に対する対応を検討する。 ・スタッフの防災の意識を高め、定期的に訓練や話し合いを行う。
	3 虐待を防止するための職員研修機の確保等の適切な対応	<ul style="list-style-type: none"> ・職員研修は十分ではない。 ・全体会議(月1回)での研修や外部研修に参加している。 	/	/	/	/	<ul style="list-style-type: none"> ・ケースカンファレンス等を含む研修の機会を設ける。 ・職員全体会議で行う予定である。
	4 やむを得ず身体拘束を行う場合における組織的な決定と、子どもや保護者に事前に十分に説明・了解を得た上での児童発達支援計画又は放課後等デイサービス計画への記載	<ul style="list-style-type: none"> ・計画立案時に計画書に記載するとともに、保護者様にも周知し行ったときはノートに記載する。 ・危険を伴うため、やむを得ず拘束を行う場合、子どもに事前に説明してからケアを行っている。また、その報告は記録として保護者に確認してもらっている。 	/	/	/	/	<ul style="list-style-type: none"> ・本当に必要不可欠な拘束であるか考察した上で、保護者への説明、了解、記録を怠らない。 ・その子に応じた理解度も含め、なるべく身体拘束をしなくて良いような声掛けやプレバレーションなども実施する。 ・ノートへの記入も改めて意識していく。
	5 食物アレルギーのある子どもに対する医師の指示書に基づく適切な対応	<ul style="list-style-type: none"> ・持参した物以外に口にする場合、情報用紙や指示書を必ず確認している。 ・アレルギー情報については個人ファイルを確認するようにしている。 ・クッキング等配慮しつつ楽しめるよう工夫している。 ・食物アレルギーに対して密に連絡をとっている。 	/	/	/	/	<ul style="list-style-type: none"> ・引き続き現在の対応を徹底する。 ・ファイルにも明記して注意する。
	6 ヒヤリハット事例集の作成及び事業所内での共有の徹底	<ul style="list-style-type: none"> ・職員全体会議でヒヤリハットの事例や件数について報告がある。 ・事故対策委員会での検討を行っている。 ・発表はあるが十分とはいえない。 	/	/	/	/	<ul style="list-style-type: none"> ・口頭での簡単な報告だけでなく、報告書の詳細な内容を共有し検討するため、事故対策委員会を設置しており、その場で引き続き月1回検討を行う。 ・ヒヤリハットの情報をみんなで確認する。
満足度	1 子どもは通所を楽しみにしているか	<ul style="list-style-type: none"> ・その子にはまった遊びができた時は笑顔もみられる。 ・楽しみにされている方は多いと感じている。 	9	0	0	1	<ul style="list-style-type: none"> ・常に通所を楽しみにしてもらえよう工夫していく。 ・お子さんが楽しめるような遊びを考えて実施していく。
	2 事業所の支援に満足しているか	<ul style="list-style-type: none"> ・スペースや物品が不十分などところがあるため、今後新スペースで改善できればと思っている。 ・これからも努力したい。 	9	0	0	0	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者様、利用者様共に満足してもらえる支援を行っていく。 ・保護者様の期待に応えられるような支援の実施をしていく。